

2016年熊本地震・地震断層に関する緊急速報

熊原康博・後藤英昭（広島大学）・中田 高（広島大学名誉教授）

2016年4月16日早朝に発生したM7.3の熊本地震にともなって地表に出現した地震断層について、直後の野外調査によって得た情報の概要を報告する。

1. 地震断層は、都市圏活断層図「熊本」の布田川断層（地震調査委員会の布田川断層とは括りが異なり、同じ定義ではない）の主部に沿って出現した。これまで確認した地震断層のトレースは、益城町堂園の北方から同上高野に至る約10kmである。日奈久断層との間にある南の矢形川の低地には出現しておらず、布田川-日奈久断層の中のセグメント境界と認定される。
2. もう一つの地震断層おトレースは木山川低地を横切って新たに出現した長さ約4kmの分岐断層で、益城町上陳から西南西に向かって益城町役場の南に至る。このため、益城町中心部で被害が拡大したのは、北から南に向かって破壊した断層の *directivity effect* が原因と考えられる。
3. いずれの地震断層も右横ずれ変位を主体とし、これまで確認された最大横ずれ量は、前者では約2m、後者では1.2mである。
4. 横ずれに伴う縦ずれ変位は、トレースに沿って隆起側が変化するが、主部に沿っての最大垂直変位量は70cm、分岐断層に沿っては40cmである。
5. 今回は北部延長部を調査していないが、活断層判読図（中田作成）によると阿蘇山外輪山を横切って流出する白川の峡谷を横切る断層トレースが存在するため、今後の地表踏査によって地震断層が確認されると予想する。